

平成30年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会

平成30年7月10日（火）
伊勢原市役所 全員協議会室
午後2時30分 開会

- 事務局・平成30年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を開会する。
- 委員長・挨拶
- 事務局・ただいま、検討委員全員の出席をいただいている。伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱第6条2項に基づき、過半数の出席をいただいているので、会議は成立する。
 - ・資料の確認を行う。本日の次第、「平成31年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針」、「平成31年度の使用教科用図書発行者・発行数一覧」、学習指導要領「特別の教科 道徳」、また、事前に送付し、お持ちいただいた資料で、「中地区教科用図書調査研究の結果（平成31、32年度用）」、「神奈川県教科用図書調査研究の結果（平成31、32年度用）」がそろっているか。
 - ・教科書と編集趣意書、及び平成26年度見本の時点からの変更箇所一覧を、置かせていただいている。
 - ・第1回検討委員会では、「伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱」、「教科書の定義等」、「伊勢原地区教科用図書採択の流れ」、「神奈川県平成31年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針」について、説明した。
 - ・本日の配付資料「平成31年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針」について再度確認する。（資料読み上げ）
 - ・学習指導要領の「特別の教科 道徳」には、「特別の教科 道徳」の目標や内容等が書かれている。
 - ・以上の点などを踏まえ、本日の検討協議を進めていただきたい。
 - ・この検討委員会は静謐な環境のもとで採択事務を行うために非公開となっているが、公式な会議のため、記録をとり、会議録をホームページで公表することを御承知おきいただきたい。また、情報公開の請求があった場合にはこれに応じることも前回と同様である。
 - ・教育委員会は、教科書の採択に当たり、本日の検討委員会での検討協議の内容を参考にするため、教育委員が委員長の許可を得て出席しているため、御承知おきいただきたい。
 - ・では、進行は、第6条第1項に基づき、委員長に議長をお願いする。
- 議長・委員の皆様には本検討委員会の趣旨を御理解いただき、適正かつ公正な採択のための検討が行われるよう、御協力をお願いする。
 - ・では、本日の進行について、事務局より説明をお願いする。
- 事務局・まず初めに、平成31年度に使用する、小学校「特別の教科 道徳」

を除く全種目について検討をお願いする。小学校「特別の教科 道徳」以外の教科書は、平成27年度から30年度までの4年間、同じ教科書を使用している。平成31年度からは採択替えとなるが、平成32年度には新学習指導要領の全面実施に伴い、教科書が新しくなる。そのため、今年度採択される教科書は平成31年度の1年間のみの使用となる。よって、新たな調査は行わず、平成26年度の調査結果を活用し、これまでの4年間の使用実績も含めて検討していただく。

- ・そこで、初めに事務局より、平成26年度に実施した調査結果について報告し、その後、検討委員の皆様より御意見をいただく。
- ・次に、平成31年度から中学校で使用する「特別の教科 道徳」の教科書1種目について検討をお願いする。
- ・まず調査員が、伊勢原市、平塚市、秦野市、二宮町、大磯町の共同調査研究の結果に基づき報告する。その後、報告についての質疑の時間をとり、終了した時点で調査員は退室する。調査員退席後、検討に入ってください。必要が生じた場合には調査員に再度入っていただき、質問することも可能である。
- ・本検討委員会は、各検討委員から十分に意見を出して検討していただく場であり、教科用図書を1種類に絞る性格のものではない。結果的に1種類への意見が多くなるということは考えられるが、検討委員会としての方向性が幾分見えたところで検討を終了する。

- 議長・採択については、教育委員会が「平成31年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針」に基づき行う。そのために必要な事項を調査検討することが本検討委員会の役割である。伊勢原の子どもたちにとってふさわしい教科書、使いやすい教科書を検討していただきたい。
- ・まず、小学校「特別の教科 道徳」を除く全種目の検討から始める。事務局より、平成26年度の調査結果について報告をお願いする。
- 事務局・報告（「小学校用教科用図書調査研究の結果（平成27、28、29、30年度使用）平成26年6月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・中地区」のとおり）

【質疑】 なし

【検討】

- 議長・皆様から御意見をいただき、検討を進める。
- 委員・全種目検討ということだが、最初に出てきた国語について、現在は光村図書出版を使っているが、読み物教材が充実していていいと思う。学習の手引もわかりやすく、これまで使ってきて、学びを深めるといった観点で工夫されていると感じている。
- ・書写にも同じ光村図書出版を使っているが、使いやすいのでよいのではないか。
- 委員・次の社会だが、今説明があったように、神奈川県のもものが多く取り入

れられていて、子どもたちも身近なものとして興味・関心を持って学習に取り組んでいると思う。今の教育出版のものでよいと思う。

- ・次の算数も、どの教科書も練習問題がたくさんあって、学習に取り組めるようになっているが、今使っている教育出版は、算数的な活動が軸になっていて、学習を進める上で、子どもたちのためになっていると思うので、今の教育出版のものでよいと思う。

○委員・中学校で理科を担当しているので、理科の教科書についていうと、説明にもあったとおり、子どもが自ら問題解決ができるような流れで、どの教科書も配列されている。特に、今使っている啓林館では、別冊があり、その別冊に「思い出してみよう」というのがあり、既習事項や、日常経験を確認してから単元の学習に入れるようになっている。理科は、日常の自然現象というものを取り込んで考えていくことがとても重要なので、こういったところでは啓林館がよいと思う。

○委員・図工と音楽などの技能教科を見た。また生活や家庭、保健なども見たが、どの教科もよく工夫されていると思う。現在使用されている教科書については、それぞれに学習の流れがわかりやすく示されていて、写真やイラストが見やすいなどの工夫もあり、どれもよい。

○委員・現在小学校で使っている教科書を見たが、どの種目においても、大きな問題となるような表記というものがなかったように思う。このまま同じ教科書を使って学習を進めていくことが、教員にとっても、また児童にとっても、安心して学習に引き続き取り組めるのではないかと考えている。

○委員・現在使用している教科書は、どの種目をとってみても、大変よく工夫されており、伊勢原市の児童に合ったものであると感じている。また、教科書そのものが変わっていないということなので、これまで教員が教材研究をしてきたことを生かすことができるという観点からも、現在の教科書を使用していくことがよいと感じた。

○委員・新学習指導要領の平成32年度からの全面実施が控えていて、これまでの教材研究を生かして、次年度を進めていくことは大変大きな意味があることではないかと考える。全面実施に向けた準備をしながら、次年度移行期間の授業をしていく上でも、同じ教科書を使うことがよいのではないかと考えた。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ、小学校の教科書についての検討を終了する。

- ・全体的な意見として、どの種目の教科書についても、現在使用している教科書に問題はなく、同じ発行者のものを引き続き来年度使用するほうが児童にとってよいのではないかとということでまとめた。

○議長・次に、中学校特別の教科道徳の検討に入る。

- ・まず調査員に報告をお願いします。

- 調査員・報告（「中学校用教科用図書採択『特別の教科 道徳』調査研究の結果（平成31・32年度用）平成30年7月 平塚地区・秦野地区・伊勢原地区・大磯地区・二宮地区」のとおり）

【質疑】

- 委員・今、考える道徳、議論する道徳への転換ということが言われているが、教科書ではどのような点に工夫がなされているか。
- 調査員・どの教科書も、生徒が自分の意見や考えを持つための問いが設定されている。その問いをもとに、自分で考えをまず持って、それをもとに友達と意見を交流するという一方で、考え、議論する道徳の工夫がなされている。
- 委員・別冊のことだが、日本文教出版は教材に対応していることだが、中学校で授業をするときに、別冊がなかった場合はどう対応されるのか。何かワークシートのようなものや、ノートのようなものを使っているのか。
- 調査員・別冊がない場合は、教員が独自でワークシートを作って、その教材で生徒がねらいに迫るように、ワークシートに書き込み、それを発表し、生徒同士で交流したりというような学習を進められるようになっている。このように別冊がない場合は、ワークシートを作って授業を進めている。
- 委員・今回、問題解決的な学習や、役割演技など体験的なものを学習に取り入れたりということが求められているが、各教科書の中で具体的にどのように取り扱われているのか、特徴があれば教えてほしい。
- 調査員・役割演技は、例えば東京書籍では、目次の中で「アクション」と示されている。問題解決的な授業をするために、生徒が自分のことと教材を考えられるように、役割演技をしたりして、その内容を自分事として考えられるような工夫をしている。
- 委員・道徳は、1週間にどのくらい授業を行っているのか。
- 調査員・道徳の授業は1週間に1時間である。
- 委員・来年以降も1時間と決まっているのか。
- 調査員・そうである。
- 委員・学校図書には最後に「保護者の方へ」というページがあったが、ほかの7者はあるのか。
- 調査員・学校図書はある。ほかの発行者は確認していない。
- 教育委員・50分が前提の授業で、教材を読むことに関して、8者見られた中で、どう感じたか。
- 調査員・各者とも、教材がととも長いということはなく、適切な長さの教材になっていると思う。大体が4ページぐらいで一つの教材がおさまって

いて、また、長いものは2段組になって4ページにおさまるような形になっている。

- ・教材が長くなると読み取りに時間がかかり、50分の授業の中でおさめる難しさはあるのではないかと感じた。

○教育委員・4ページぐらいになっていると言われたが、私も全教科書を見たが違うと思う。実際には、8者ともそれぞれの教科書の教材を見ると、4ページという発行者もあれば、8ページあったり、声に出して読むと12分かかるものがあったり様々である。実際には4ページではなくて、6ページ、7ページぐらいとか、8ページあったりとか様々な教科書があるので、実際に先生方が使うんだという前提の中ではどういう捉えられたかということを知りたい。

○議長・ほかに質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○議長・それでは検討を進める。御意見を願います。

○委員・大きさは3種類あると報告があった。一番小さいのがB5判で、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、日本教科書。次がA4判で東京書籍、学校図書、廣済堂あかつき。一番大きいのがA4版の学研教育みらいである。

- ・今、中学校で使っているのはほとんどB5とかA4判と聞いているので、A4判はちょっと、道徳としては大きいかないという印象。中学校は美術科は、A4版で、それはよいと思うが、道徳としてはA4判までの大きさかなという感想を持った。

○委員・別冊があるかどうかは、私も見ていて本当に気になったところである。別冊があったのは日本文教出版と廣済堂あかつきの2者だが、それぞれの特徴については調査員から説明があった。

- ・日本文教出版のノート教材については、授業ごとになっていて、自由に合わせて使いやすいと感じた。また廣済堂あかつきのノートについては、内容項目ごとになっていたのも、テーマごとに扱うことになるのかなと思う。

- ・その中で、私自身が感じたことは、ノートがなくても、これまで道徳授業の中で、教員が工夫したワークシートを使ってきており、生徒の実態に合わせて考えたほうが良い部分もあるということである。別冊のない教科書のほうが、自由に授業内容を工夫することができて、かえって使いやすいとも考えられる。

○委員・別冊ノートに関してだが、別冊ノートには問いが書いてあって、それについて自分の考えを書くことができるようになっている。授業を行っていく上で、大切な問いだが、やはり教科書や別冊に書いてある問

いについて、そのまま授業で使うということは、あまりないと思う。その点で、日本文教出版のノートには、問いとは違う、自由に書き込める欄があって、使いやすいのかなと感じた。

- ・また、ノートがない発行者の場合においても、考えや自分なりのまとめを書く欄があり、例えば東京書籍と学校図書がそうだが、ノートがなくても書き込める欄が多くて、活用しやすいのではないかと思う。
- 委員・何らかの形で振り返りをするとか、自己評価のページというものが、別冊ノートであったり、あるいは巻末のページを切り離して使ったりという形で、8者とも入っていると思う。
- ・ただ、その中で内容項目の22項目全てに関して、廣済堂あかつきの教科書では巻末で5段階評価で、できた、できなかった、ということでも一個一個評価をしていく。それから日本教科書では、意味はわかるが大切さを感じてないとか、態度や行動をすることができないということ、やはりこれも22項目それぞれにおいて分析をする形をとっている。そこが気になる。
 - ・内容項目ごとに一個一個分析をしていくということよりも、生徒自身の心の変容や、心の葛藤や生き方というものについて考えて、トータルで自分の考え方がより深められるようになってるほうが、振り返りとして適しているのではないかと思う。
- 委員・保護者としては、道徳というのがどういう授業なのか、全く正直わからなかった。中学校の教科書を見る前に、小学校の道徳の教科書を見た。最初に、「道徳の時間はこんな時間です」という出だしから始まり、なぜだろう、どうしてだろうというのをまず問う、そして考える、話し合う、まとめるという順番で書いてあった。これを見たら、こういう感じで進めるのかというのが少しわかった。
- ・それをもって中学校の教科書を見たが、そういうことが出だしに書いてある教科書が少なかった。似たようなことが書いてあったのは学研教育みらい。学研教育みらいは、教科書に出会う、考える、話し合う、そして考えを深めるという、4つのポイントが最初に書いてあった。それが一番わかりやすくいいと思った。
 - ・中身としては、読んでいてどれも意味がわかりにくかった。その中で、元広島の黒田の話で、黒田がメジャーリーグから日本のプロ野球に戻るといった内容が書いてあって、野球好きなので、最初から最後まで読んだ。
 - ・そういうスポーツや、オリンピックなどの話は、子どもたちも興味があって、読んでみんなと話し合えるかと思う。
- 委員・授業で活用しやすいというところでは、ポイントや、問い、テーマがどのくらい示されているかということも視点になるかと思う。
- ・学研教育みらいは問いが一つあり、東京書籍、学校図書、教育出版、日本文教出版、日本教科書は、教材の後ろに2から3の問いがあった。

廣濟堂あかつきにおいては教材の後ろにさらに3から5の問いがあり、光村図書出版は「学びのテーマ」というページに5つ程度の問いがあった。

- ・ 道徳の授業を行っていく際には、このような問いは重要であると考えられる。生徒がそこでどんなことを考えるかということになる。
- ・ 問いの内容を読んだときに、シンプルでわかりやすいと感じたのが東京書籍。また学校図書は、活動の流れがわかりやすいと感じた。光村図書や廣濟堂あかつきは問いの数が少し多く、細か過ぎると感じた。授業の中でこの問いを全てやろうとすると非常に時間がかかってしまうので、どこの項目、どこの問いを取り上げていくかという取捨選択が必要になってくると思う。

○委員・ 中学校の「特別の教科 道徳」の教科書展示を見に行った教員に意見を聞いた。中学校の教員の意見としてまず多かったのが、東京書籍の教科書が紙面が見やすい、挿絵や題材、写真が多く親しみやすい、読む量が適切なので非常によかったという意見。また、日本文教出版は、テーマがわかりやすい、ノートが使いやすい、振り返りや評価に活用しやすいという声があった。その他、廣濟堂あかつきについては、別冊のノートが充実している、光村図書出版については文章量が充実しているなどの意見があった。その中で、多くの意見が出ていたのは、東京書籍と日本文教出版である。

- ・ 教員の見方の一つとして、50分間の授業を意識しているということがあると思う。具体的には、50分を1単元とした授業の中では、導入が5分、教材資料の読み物が約15分から20分、その後の話し合いの場でテーマを2つぐらい大きく取り上げて論議の場とする。そして最後、振り返りや最後にまとめをするとちょうど50分ぐらいなのかなと思う。そのように考えると、その50分の授業の範囲内の時間を意識した教科書という見方をしていると思う。

○委員・ 学習指導要領にある「考え、議論する道徳」というキーワードは大切であると思う。その際に、これまでもやってきたとは思いますが、もう一度ここで、道徳科になるということで、教員も生徒と一緒に、道徳ってどういうふうに進んでいくのかというのを確認する、いい機会になるかと考えている。

- ・ その意味で、巻頭の工夫というのが一つ視点となるかなと思って見た。東京書籍は巻頭に話し合いの流れが示されていて、短い文例があって、実際に話し合っ取り組めるような工夫があった。また日本文教出版、教育出版、学研教育みらい、日本教科書は、道徳科で学ぶこと、そして学び方が、イラストや写真で示されていてわかりやすいという特徴があった。また、学校図書、光村図書出版についてはイラストで書かれており、廣濟堂あかつきについては文章で対話することや考えることについて示されていた。生徒が道徳科に対する関心を高めて、自ら

考えたり話し合ったりしようとする態度を高める上で、どちらの工夫もあった。

- 委員・学習指導要領ということで、同じような立場から見ると、様々な現代的な課題に関する資料の充実というのが取り上げられていて、いじめや情報モラルとか、命の大切さとか、最近問題になっていることが取り上げられている。
 - ・神奈川県調査結果を見ると、どの発行者も様々な課題について満遍なく取り上げているように思う。
 - ・報告にもあったが、いじめについてどの発行者も取り入れているということが読み取れた。中でも、東京書籍や光村図書出版は、複数の教材を、「ユニット」と言っ、一つの教材だけではなくて、幾つかをまとめて合わせたような内容になっていて、子どもたちが考えるにはとてもよいのではないかと思った。また、日本文教出版はコラムが取り上げられていて、組合せで深めるようになっていて、そういうところがよいのではないかと思った。
- 委員・自分が子どもになったつもりで8者全部見た。最初、中学の道徳はどういったことをやるのかなといったときに、わかりやすそうだったのは、学研教育みらいと光村図書出版と東京書籍。また、目次の使い方がよいと思ったのが日本文教出版。内容として、絵や写真を使っ、内容的に子どもに読ませたいと思ったのが学研教育みらいと学校図書、それから教育出版、東京書籍、日本文教出版。日本教科書は学年ごとに目標が違っ、いいかなと思った。文章量が多いと思ったのは日本教科書、廣済堂あかつき、教育出版。
 - ・自分たちで考える内容はそれぞれあり、また、ページの最後に書き込むような欄があったりした。学研教育みらいは、最後に他教科との関連が載っていた。別冊にノートの付録が入っているのもあったり、ノートがなくても書き込めるような形になっている教科書も多かった。
 - ・子どもが飽きないのがよいと思う。文章ばかりだと多分、自分が中学生だったら飽きてしまうと思った。中学校で教えてる先生方からすると、これぐらいの文章量だったら飽きないとか、これだけ文章量が多いのは中学校より高校レベルかとかあるのかなと思う。
- 委員・調査研究の結果の一番右側の、体験的な学習等という欄の報告を見ると、役割演技というのが発行者の中で何者か扱っていると思う。東京書籍、教育出版、日本文教出版、学研教育みらいにあり、中学校の教科書でも、体験的な活動を通して考えが深められるように、あるいは絵や写真、書き込みといったスペースなどが工夫されているので、体験を通していい授業ができるのではないかなと思う。
- 委員・子どもたちが授業を受けるという観点で、内容構成的に見ると、全部が35教材、ほぼ全ての教科書にある。これは年間35時間というところを考えていると思う。教材に加えて、それぞれのところにコラム

があつたり、漫画があつたり、詩があつたり、意見文があつたりと、それに補足するような形で加えられて、さあ考えてください、というふうな構成を、各教科書ともとっていると思う。

- ・考え方を子どもたちが深めるという意味では評価できる点もあるが、資料があまりにも多過ぎる、あるいはあまりにも少な過ぎると難しい問題が生じてくるかなと思う。
- ・そういった意味では、単純にページ数が多いと「えっ」というふうに子どもたちは思うのではないかということがあり、それでいうと光村図書出版や学校図書は、こんなに厚い、ページ数が多い、という気持ちになると思う。また、廣済堂あかつきは別冊ノートがついていて、そちらにもいろいろな資料や表、グラフなどがついている。そうすると、教員としても、全てが消化できるのかなと思う。

○議長・ほかに意見はあるか。

《なし》

○議長・なければ、これで検討を終了する。

- ・調査報告では、各者それぞれに特徴やよさがあることが確認できた。話し合いでは、道徳の学習の進め方、教材や資料の内容、学習指導要領との関連等が視点となったかと思う。本日の検討内容をまとめ、教育委員に報告をさせていただくがよろしいか。

《はい》

○議長・感謝申し上げる。進行を事務局に戻す。

○事務局・本日の検討結果、会議録については、まとまり次第、市のホームページで公表させていただく。8月下旬を予定している。

- ・会議録と合わせて、教育委員に送る報告書を事務局でまとめさせていただくが、内容については事務局に一任いただきたい。
- ・情報公開の請求があった場合、検討委員会委員の氏名を公開する。時期は、8月下旬の教育委員会議定例会以降となる。御承知おきいただきたい。
- ・最後に閉会の挨拶を、副委員長より願います。

○副委員長・挨拶

○事務局・平成30年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を閉会する。

午後4時30分 閉会